

如來は此所以に出現して先づ初めに五戒を教ゆるが慈悲と知るべし
此五戒を持用しては身軀も國土も衆生界も共に此戒力を感して三災
七難は國に憂へあらしめず自他長壽を完ふする幸福は最も此五戒の
徳に起因すると云ふなり諍ふべからず是れは聖人が教誡なり
上來陳ふる如く五戒は釋迦世尊が作出にあらざるを知り人々各々心
軀に有る無作の戒律なる事を感すべし要するに是れを行ふ者ある時
は自他の衆生と國土とに戒力を顯して功德の感應妙ありと云ふ曾て
他教の行ふ戒律とは彼此比へにあらざれば此妙理を知らざるなり
是れは此れ實理にして動かす佛教の眞面目たり今世に當て此戒の疎
なるは人衆國家の不爲めなりと經文に告たり願はくは社會一途に出
て、今世に適當したる諸佛戒を興し共に國家安寧の域に進化せん事
を望む是れ學士が妄愚の誤解を直ふし尋ひて衆人に告るの誠なりと

いふなり

全丁學士曰く但し釋迦は虚空寂滅を以て立教の基本とせし者に
て事を神威に托せし者には非らずと言ふ人もあらんかなれと其
實然らず何むとなれば釋迦も帝釋の命を受けて衆を濟渡せんと
て人間に生れ出てたる者なりと言ひしにて

全軀學士は途轍なき事を卷出す邪見あつて是れを見聞に忍ひず夫れ
學士が持病は人の爰に生を受るや天然自然の空理と立てながら今亦
既に釋迦は帝釋の命令に因て衆生濟渡の爲めに人間に生出てたりと
云ふ事を云ひ出したるは如何む若し帝釋の命令を主張せば釋迦が滅
しては帝釋の許とに復命すと云はざるべからず果して然らば進化論
の眼目とする彼の人に魂魄と身軀との二物あつて死亡は魂魄が離出
するなりとの妄信にある事と書きしは自からの妄信に轉して爰に白

狀するが如何む矛盾する事の數多なるは其れなんぞや人を欺誑する
 は學者の取らざる處なり學士其れ是れを如何む抑も釋迦は靈空寂滅
 を以て立教の基本とせしものと云ふは何なる現證ありや無根の邪妄
 を吐く事を止めよ夫れ佛世尊は人の心理を世々に發達する事を教ゆ
 るが本義なるにも抱らす是に反して虚空寂滅如き短空の邪理を誰れ
 か釋迦に習ふ僻人あらむや監みるへし苟も釋迦は三世了達の聖人な
 り小兒に空率を以て誑かす如きの空理を焉むそ教へむや實に妄信も
 甚しきものなり學士知らすや釋迦如來は一代心理の因果を説き玉へ
 り因果は是れ常住にして空なるものにあらす因より果に至り果は亦
 因に至り不變常住の者にして空滅の文字を付する處なきを知へし
 偕て此因果に四種の因果あつて是を説明するに淺深を立て、常住の
 心理を因果と名けて一代教相を垂れ玉いしなり釋迦の立教基本は心

理奥藏にして正しく一念三千なり其證據は既に一代説教を聽聞せし
 一會の大衆が終身の觀心と及ひ十方來集の諸佛か助舌の鹹歸の金言
 を拜知すれば明白なりと云ふ此故に如來の説教は徹頭徹尾一毛も空
 滅の法相無きを如何む其空滅を習うたる人は一人もある事なきを何
 むせむや此事實に就て見る時は學士は妄信の底抜けを此進化論に語
 る者の如し誰れか學士をして信を置く處ありと云はむや釋尊座せば
 何むと云はむそれ唯た謗法破佛と云はむ耳み嗚呼哀れむべきかな
 次には帝釋の命を受けて釋迦は出現したりと云事物怪の虚なり學士
 知ずや帝釋は釋尊に救濟を蒙る六道の衆生社會なり釋迦尊は佛界な
 り帝釋は凡夫の所化なり師弟の區別あり比較の限りにあらずと知る
 べし何ぞ此事あらん監みよ
 次に釋尊は過去に約束せし衆生の爲めの應現なれば度すべきものを

度して直ちに滅を取つて寂光に歸し玉ふ天上天下唯我獨尊の境界にて帝釋如き凡夫の命を承くる釋尊にあらざれば輕蔑するなかれと念告す

全丁寂滅涅槃を以て基本とするに至りしは后世の事なればなり蓋し我輩は大乗の深理は釋迦の心より出たるものに非らずと言には非らず乃至其初めは華嚴を説きたれども衆生の根機低ふして適當せざりしゆへ再び小乗論を説きたりといふ事に就ても見るべし

本地無作三身如來金言して曰く

若以小乗化乃至於一人我則隨慳貪此示爲不可矣

實義をば學ばずして人の口眞似をする者は小兒よりも甲斐なきものか此一段に學士が寂滅涅槃を以て基本とするに至りしは後世の事な

りと云ふが如きは何ぞ現證ありや出すへし曾てあるべからず學士知らずや寂滅も涅槃も義を以て云は、同意なり決して死すと云ふ事にはあらざるなり笑ふべし

夫れ神佛共に一世の者にあらざるを知らむや又其れに就ても世界も亦爾かなり過去世無くむば世界も衆生も因て來る處ある事なし大凡そ物として種子無くして來生するあらん況むや別して人界有情の大心理をや就中佛陀聖人は過去無量劫當初の人にして寂滅せず世々に出現しては生智妙悟の神力を顯すを以て眼前の證とせよ此一段學士が曲會一時に滅無に屬するか笑ふ可し

次には大乘は釋迦が説にあらざると云はむばかりの評を入たる者は野蠻人か口眞似なり學士云ふ華嚴を説て再び小乗論を説とは何の戯言ぞや華嚴は是れ頓大とて權を付すれども大乘部なり一代初説なり次

に阿合を説く初めて説く小乗をば再ひと云ふ字を置くは如何ん殊に
 經と云へきを論の字を付するはなむぞや佛は經なり菩薩は論と云の
 別を知らざる妄痴を如何む抑も小乗を説く者は調機調養と云へとも
 佛陀一念三千を明かす前には必ず説かざるへからざる法相なり此法
 相興きて後の此上には因果異性と云法相起る爰に始めて大乘に復し
 たり學士知らずや佛は何々の法相を説きしと云ふ事も知らずして頓
 大より小乗に移りしを以て一代小乗説にて止めりと思へるか笑ふへ
 し佛陀若し小乗を説て後ち大乘を説かされば如來は過咎あらむか如
 き金言を述べ玉ひて前に掲けたるが如し何れの佛か出世し玉ふとも
 説法の儀式は摺形木の如く異動無き者なり小乗權大乘實大乘と從淺
 至深して出世の本懷を明し玉ふが實なり如來が九界の衆生を一番に
 度し玉ふ其法相は大乘なり大乘なくむば如來の種子なく九界成佛の

實ある事無きものなり小乗經には證明人なし六界を明かして十界を
 云はず成佛にあらされは有名無實なるが如し其の成佛は實大乘經に
 あり然るを小乗を以て佛教として大乘を佛教とせざるものは宛かも
 無常を好むて常住を好まざるもの云事にして完く心理の實を知ら
 す如來の出所を知らず却て如來を無常佛になし如來の心理の何物を
 知らざるものと云ふなり
 左れば今此一段を結歸せむに正さに知るへし大乘は如來が常壽の心
 理なりとす是れを十界平等に互具融即して一佛法界に歸せしめ佛の
 因果をば一念三千と唱へて三種衆生五國土世間に遍して常寂光の實相を十
 界俱に證したりと云ふか大乘顯説の實義と云ふなり小乗は此賊なし
 六道の因果異性を説きたるまでなり敢て香味なし此實理に就て見る
 時は明かに知んぬ却て小乗は迹佛の所説と云はむ耳み大乘興きて十

界久遠の十界と成て心理不滅並常因果の實證を見る時を完く佛教の大心理の資格と云ふなり學士が口眞似彌々此一段にて口を閉ちたりと云ふ佛教は學ばずして一句の語を吐くとも當らざるものなり理學者輩の知る處にあらず可笑ひかな吁々

第三部

宗教奥藏鑑

△佛教は世にあるべきものや △人の信すべきものや

△此二點を佛陀究竟の實理上にて究定す

抑も人間は一切心理(俗諦には佛意實理と云ひ眞より出で、心理國土の中に心理を有居してありなから父母も是を知らされば父母は唯た肉體を貸與へる耳みにして心理を告げず勢長して世諦學に入るも學者師長も心理實觀に就きしことなきがゆへに心理の本地を知らず却て空に歸せしめて一代切りの者として終る耳み其所以に人間よりも長したるもの世に出でざれば生前生後をしらしむるものなきは勿論なり 偕て生前生後の知識長者ありて物を深知る聖人出ては始めて人は心

理より出でし心理の中に住み心理を活生せしめて終りには亦心理を轉居せしむる事自在に活動せむと云ふ其事理を習ふては其事理に當りて考るに少しも異せざるものは良とに長者聖人が數世經驗の實證を告ぐるごと心理の神通力と感佩するの外なきは既に今日までの佛教が世に興る確證に就て考へても明白なりとしかるに此佛聖長者が常に此世にいませざるを以て今世の人が云わん此世には佛教あるべきものや人の信すべきものやといふ疑問を起すと云へども世人が佛教をば行儀式と見て心理教と見ず佛教は佛陀が語の口眞似と思ふより外には考案なく心理と知らず此所以を以てのゆへに佛教は取捨の中には捨の字に賛成力の強きが如し吁世間にそれ此惑ひなからしめむか佛教は衆生(心理)・國土(心理)・五蘊(心念)に合せて事理を明證したる心理なり宛かも人見の鏡の如きものなり常に必要なりとす三種の心理を

浮へ見る明鏡なり佛教を若し不用のものゝ如く謂わんものは必竟して自己か身軀と心理とをば削取らんとするが如きものにして曾て捨離なり難き佛教を捐捨せば身體は亡ぶとも佛教の心理鏡は依然として三世に暉映する徳は失はず彌々曇らず赫々なるものなり例せば支那の三武廢佛の其功なきが如き疑はざるものとす左れば佛教をば心理の活なるものと知れば世には片時も闕くべからざるものにして國家人爲に異義ある時は佛教の鏡に移して用務を爲す必具たり其故に地誦千界の上首曰く

八萬法藏は我身一人の日記文證也矣

佛教なくむば人間が面てを見るに向ふ鏡なきよりも不自由なり我身の始終を知るべき様なきものなり曾て佛教は國家の寶とす
佛教は人の奉すべきやの點に至りては若し人國土に一度び起たる佛

教を持たざる時は永遠に損分ありとす宛かも寶山に入て手を空しくして還るに異ならず後悔して詮なし佛教は心理の明玉なれば受持するや刹那(寸刻より)よりも實理の移る事速かなり此實相(心理の事)より取て人は佛聖に隣るものなり必竟して人は佛教を信せざる時は自己の心理を投棄するに同じく三種心理の交際を斷破するものなり上來述る如く人は心理の中より出て心理に棲むで心理を育て、亦心理に赴く此の活動を助勢するものは佛教の外かになきものなれば佛教は人の身に付帶してある本有の實理より考ふる時は勿論佛教は人の奉すべきものにして第一第二部中の理論に盡しあるがごとし佛教の用否は本來佛教の何により出でしと其出生せし源を探究すれば正さに己心より出でしものなるを以て佛教は身體を出て外かに無きを知らば必ず佛教は奉すべきこと緊要なりと聖人は垂教せられたり

心理經の法華寶塔品に曰く

此經は(心理)難持若暫持者我即歡喜諸佛亦然矣

經中の明文を出して證するが如く心理は諸佛の守る處にして釋尊經文を以て心理の要たるを示し佛教を心理として衆人に持教を奨め諸佛一般歡喜すと説けるなり其歡喜するものは他なし上來宣たる如く三種を離縁せざる天然自性なる佛教なれば互ひに交通を斷たざる理由を佛陀も維持し護念し玉ふを誓つて斯く説明したまへる者と知るへし

尊ひかな佛教は長者聖人の管轄して三種を一束に守護し玉へば他に讓らず正さに我一身の寶鏡と辱く信ずるを本理とす蓋し佛聖を侵し佛聖の誓へるをも捨離するものは論するの限りにあらずと云へども若し廣く佛教を世界の者として論ずれば人は必らず信すべき者と斷

定す

意の函蓋

函

世の中に重大なるものは何ものぞと探究すれば唯心より重大なるものは他に曾てあるなし

蓋

右の重大なる心を了簡したる者も亦心なり

函

世の中に微少なるものを探究すれば唯心より外に些細なるものはなし

蓋

函

右の測度をなしたる者も亦心なり

世の中に恐しき者にして最第一なるものを探究すれば唯心より怖ろしき者はなし

蓋

右の事實を究めたる者も亦心なり

函

世の中に美味香薫なる者を尋究すれば唯心より美麗にして芳しきを厭るもの他にあるなし

蓋

右の經驗をなしたるものも亦心なり

函

蓋 函 蓋 函 蓋

世の中に恐らく不潔なる者は唯心より淨からざる者は外になし
右の實地を知りたる者は亦心なり

世の中にして究めむとしても奥深くして究めがたく終に止むる
試めしあるものは心ばかりなり

右の實地を知れる者も亦心なり

世の中に完く手に取れて手に取れざる難なるものは唯心の外に
あるなし

函 蓋 函 蓋 函

右の事實を自在にしる者も亦心なり

世の中に難有く尊き者を尋求すれば唯心より外かあるなし

右の検査をなしたるものも亦心なり

世の中に嬉しき悞しき者を探究すれば唯心より慈しみ愛すべき
ものあるなし

右の事實を分別する者も亦心なり

世の中に物の原素を尋求しても遂に出處のわからむとする者は

蓋

右の事實をしらべたる者も亦心なり

函

世の中に地水火風の四大より最大夥多なるものなきや否やを探究すれば唯心より大なる夥多なる者はあるなし

蓋

右の實地を探究したる者も亦心なり

函

世の中に新古の名の付かぬ者を探究すれば唯心より外にはあることなし

蓋

函

右の實地を経験したるも亦心なり

蓋

世の中に遠近の別なく自在通ある者は唯心より外にはあるなし

函

右の事實を調査したる者も亦心なり

蓋

世の中に人作にも亦神佛の造作にも係らずして素より有るものを探究すれば唯心ばかりなり

函

右の事實を試みたるも亦心なり

世の中に比較の取れぬ物とて是を探究すれば唯心ばかりは物に

蓋 函

比較なり難きものなり
右の事實を知る者も亦心なり

世の中に完く色形の有て容易に見る事のできぬ者は唯心ばかりなり

右の事實を調査したる試めし有る者も亦心なり

世の中に大凡その者は知ると雖も不可知的の者は唯心なり

右の事況を試みたるも亦心なり

函

世の中に物の不思議といふ事澤山あれども思議に能ふるものは唯心ばかりなり

右の實況を尋究したる事ある者も亦心なり

世の中に縦横も輕重も總ての物には度があればとも唯心ばかりは定めなきなり

右の實地をしる者も亦心なり

世の中に切るにも切られず焼にも焼かれざる者を探究すれば唯

蓋

函

心はかりば其事なきなり
右の實況を究めたる者も亦心なり
世の中に甲乙のある者をば探究すれば唯心の外に段々甲乙あるはなし

蓋

函

右の實地を探行したる者も亦心なり
世の中に千變萬化する者を探究すれば唯心の如き移り轉するものは他にあるなし

蓋

函

右の實況を試みたるも亦心なり
世の中に妙なる者にして言語の道の絶ゆる者を尋究すれば唯心より外に有る事なし

蓋

函

右の事實を究め竟る者あるも亦心なり
世の中に算數譬喩に係らぬ者はなけれども唯心ばかりは校計も假令も及ばむ者なり

蓋

函

右の事實を監定したる者あるも亦心なり

世の中に萬達の器用を備へたる者を探れば唯心といふより外に
なし

蓋

右の事實を探究したる者あるも亦心なり

函

世の中に道理に随ひ道理を活用さする者をば探究すれば唯心ば
かり此事をなすなり

蓋

右の實理を能くしるものも亦心なり

函

世の中の物は一功に何の働にて物を起因するやといふ事を探究
するに萬物を起立する物は心といふ其中に亦一心を起こすも心

なり

蓋

右の實地を経験したる者も亦心なり

函

世の中に一切物の事理を或は習ひ或は此を教しへしむる者の本
素は何より出すやと探究すれば唯心なり

蓋

右の事實を探究したる者も亦心なり

函

世の中に始終のなきものを探究して見れば唯心ばかりは無始無
終なり

蓋

函

右の實地を究めたる者も亦心なり

世の中に無始の心理を束縛する者あるその縁を探究すれば唯心なり

蓋

右の實況を探究したる者も亦心なり

函

世の中に興廢存没のある原を探究すれば唯心なり

蓋

右の實況をしる者も亦心なり

件三十壹箇の函蓋は正さに宗教奥藏に住する事理にして辱くも此事實を究盡し玉ひし聖人は唯本地無作三身の如來一人あるのみ是を習

ひしらむと欲せば一念三千佛教の鏡を觀見せよ心理函蓋具足して宛然たり

佛法の二大事には難逢きを告げ佛教に縁因を取る事急務なるを辯明す

大乘法華經に曰く

諸佛興出世惡遠值遇難矣

其れ法は貴れども獨り弘らず是を弘むることは人にありと云へば佛出現し玉はされば法をば聽聞は難しと云ふ今經文に就いて伺ひ見る時は諸佛の出世は懸かに遠く亦值難しと見たるなり然れば法佛供に尊貴なり値ひ難く聽きがたきは法佛なりとす願みるに佛は衆生を度し玉ふに三益種熟脫の次第あつて縁か到來せざれば出現なきがゆへに爰を以て衆生は佛陀をば渴仰するなり其渴望する者は他なし佛陀

聖人の顔貌を拜する事は曇華の世に出るを見ること難きにも尙ほ遠く希有なりとす故に若し其れ佛に逢ふて佛乘を得る者は宿福甚幸の者とし速疾頓成の者とするも今日は無教の時なれば猶更らあるなし左れば佛教は容易く信ぜらるゝ者と人は臆と云へども誓願を發さざれば受持の縁は遠きものと知るべきなり彼の過去に雪山童子の如き鬼神に身を法に換へ又た樂法梵志の如き身の皮を剝ひて法に替へしは無佛世にして法佛を戀慕して心理を研修するの所作佛事にして皆是れ佛法には値ひ難きを知つて命にも替へ難きを究めたるより出る試しもあれば今世の衆生が其振舞の爲し得べからずと雖ども實理は古今一格なれば今世末法の人に於ける前に掲げたる經文を熟誦して信を起さば正さに結縁衆ならんと云ふ徒らに生し徒らに死し永く流轉を究めて悔ひを三五の塵點に取る事なくんば可なり

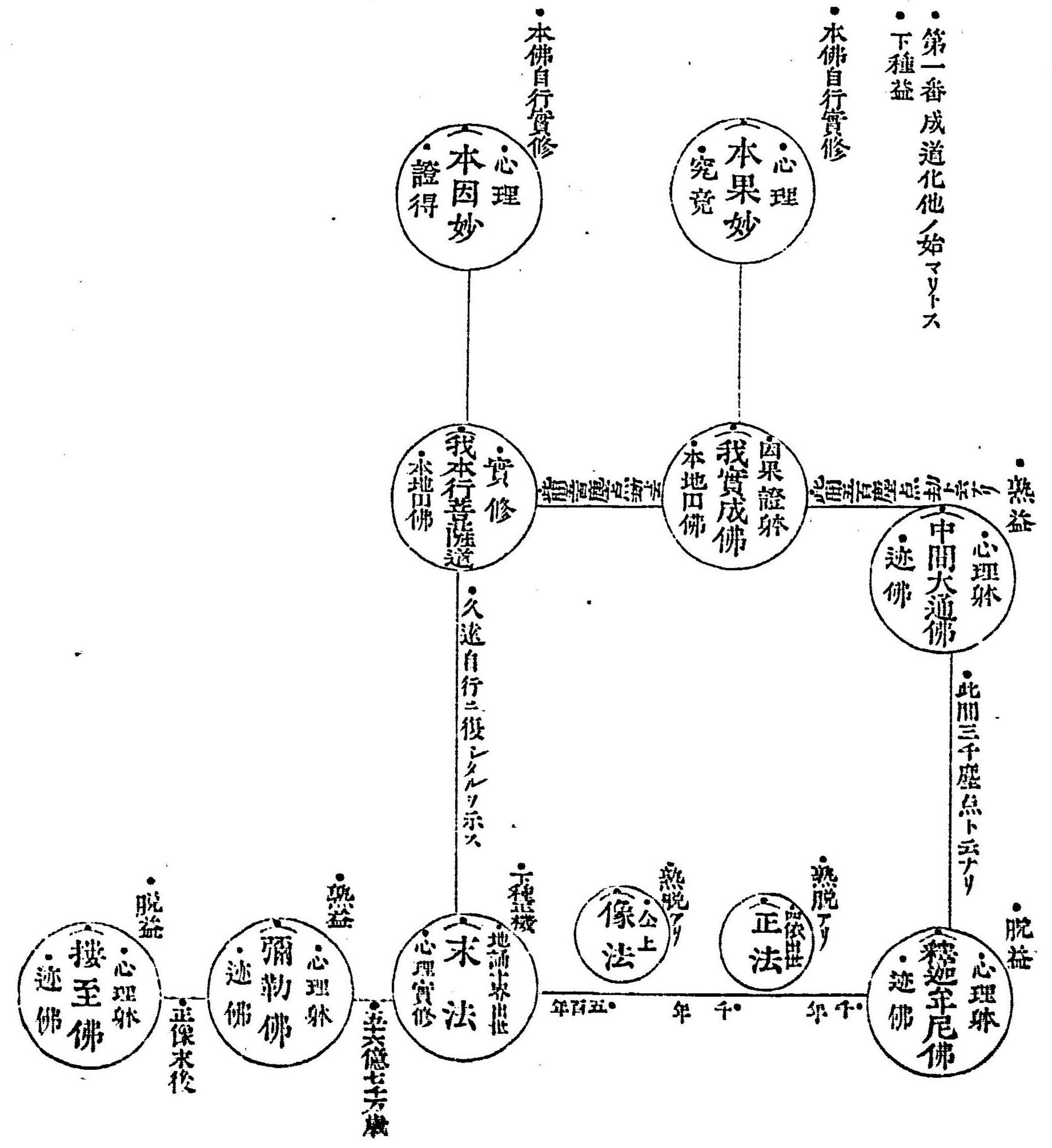
一佛化導の始中終循環無窮の法相を告ぐ

（釋に曰く三世の化導慧利無窮矣）

本因本果の法主本地自受用報身如來は是れ本有の佛法を興したる圓佛に座まして諸佛の種子は此本佛の領し玉ふ處なればなり其所以に此如來をば本因本果の法主と稱して本有無作の佛種の因果の法主と崇めて十方の諸佛は此本佛より出世せる者なり其所以は此本佛の自行満足は今より遡て三五塵點劫の其上みと云ふ左れば此如來が化他行を始め玉ひし最初を本果下種とて佛種施與の緒とし今日釋迦出現まで中間に熟益あり釋尊出現を脱益といふ也將さに知る此種熟脱三益は本佛究竟（心理の究）の上の化他の行にして今日は三世常住慈悲の誓願となる故に此三益は瑠璃無究なり八方四百萬億那由陀の世界を一佛國土として爰に迹を垂れて本佛一人して九界の衆生を度し玉ふな

り正さに知る此三益をは一佛化度の始中終とし如來の慈悲は常住にして無窮の沙汰なり佛教世界に興顯して爾來如來は衆生の爲めに約束して有縁の衆生の救濟をなし玉ふ出世の順序は左圖に就て了得すべし

久遠本佛自行因果了證及他化種熟
 三益循環本有佛法ノ規定



眞との宗教には進化の文字を付すべからずといふ事實を述ぶ
付り 實理の圖面を添ふ

抑も全躰に立戻りて論ぜば有賀學士が宗教進化論の評題に因る時は將さに宗教が進化したるものゝ如く云へるかなれども其實は爾からざるなり今是れを誠との宗教家なる佛教の活眼より観る時は曾て宗教なるものは人爲に關らす苟も天理に附順して明聖佛陀が出興に係るを宗教とす此他に宗教ある事なければ進化の文字を妄りに置くべき其理は毛頭もあらずといはん吁々

右の理に基ひて觀る時は一世界には完き宗教なるものは恐くは唯一なるべし斯かる理あるにも抱らずして學士が語に依らば既に吾日本にも雜新已來は信教自由に際して宗教躰の者が三四五も出來たり此等も宗教の進化の部に入り是より年々歳々に斯躰の者が倍增すべし

皆以て宗教と名け進化といはむには今より廿年も向ふに至らば幾許の宗教名の者が出来せんもや保しがたくして邪教の稍々盛なるを看る勢ひの今日なればなり

爰を以ての故に予は之れ誠の宗教は唯一と云ひ實際宗教は進化と名くべからず宗教には皆て進化の文字をば付すべきものにあらざといふ

上み一二部中に屢々述べたるが如く佛教は實理的の者にして必然天理天性合符の境界なれば其々興廢の事實過去世より其例めしあるものゝ如し故に進化の言語は佛聖に對し憚りありとす其れ佛教は有縁の者に有縁の國に傳ふる者なれば佛語に據りて流布と云ふべし佛弟子は是れを信敬す

恭しく以みれば佛教は特り絶待教たり世界に妄信の誇りを受けず亦

進化の文字を置くべからずして巍々堂々たるなり夫れ佛教の其理たるや

常寂光より出で、一世界に光暉を放ち盡未來際に流布す是れ實理の所以なり

夫れ本來佛教の起因は五百塵點といへる過去にありと云へども其教相の奥を探究すれば其已前を説かず無教の時として此時は實理と云ふべし其心は無作本有の心理を境として心理中に境智(師が弟が如し)を興こして無量の實相なる者をば心理より無作に顯出する力をば不思議實理と唱ふなり偕此不思議實理が原素にして廣大無邊なる佛教が興きたるを以て之を了簡する時は佛教は彌よ源遠流長の實理と云ふ實相を干涉して無始無終の教理なり豈に之を不思議と云はんや

亦是れを重複して云はん時は其れ無作本有の實理の心理より出たる

佛教は更に心理なり心理の佛教は本來無教の時の實理たる心理に宛然たり其實理は亦復た無始の佛教に住して宛然たり何れも本有にして無作なり是れを教(佛教)觀(實理)不思議と云ふが此教觀の不思議をば完く現世界の人に於ても己心に蘊在せり是を實理といふなり佛教を信受する者の此義を了知して宜しく本來本有の佛教を忘るゝ事なからんを望む是れ之を此卷の要中の要と云ふなり是れに就て亦一言する事あり顧みるにそれ理といふものは不動なるものにして其不動理を活動せしむる理はこれ實理と云ふものなり其實理は究竟常住の心理が或は顯に冥に感應するものを指して實理とす此義を了知するとは中々難くして一朝一夕の談にあらざれば茲に其談を止む然るに世諦には是れを天理と云ふ此天理に依て考ふる時は了知し易すぎが如し因りて今茲に指圖を置くなり之に就て開悟せば其人の幸福ならん

左れば天理は物の原素にして無始の天理なり今之を換言すれば佛家には是れをば一念三千實理と唱ふ指圖の如く原素の天理より出たる衆生と國土とは天理の現象物なることをしるべし其衆生國土より分派して種々に出る人間は皆な天理を具德して出現する者なれば一切天理者にあらざるなし此道理をば佛教の明細論に照らすときは悉く天理にて繼なきて天理に片時も離別したるものあるなし之を佛教の法相にては互ひに遍し即したる姿といふなり指圖の墨係指南を以て了得すべし皆是れ常住の容相なることをしる事明らかなり

實理宛具
本有地水火風四大
無作非情界
音見色身

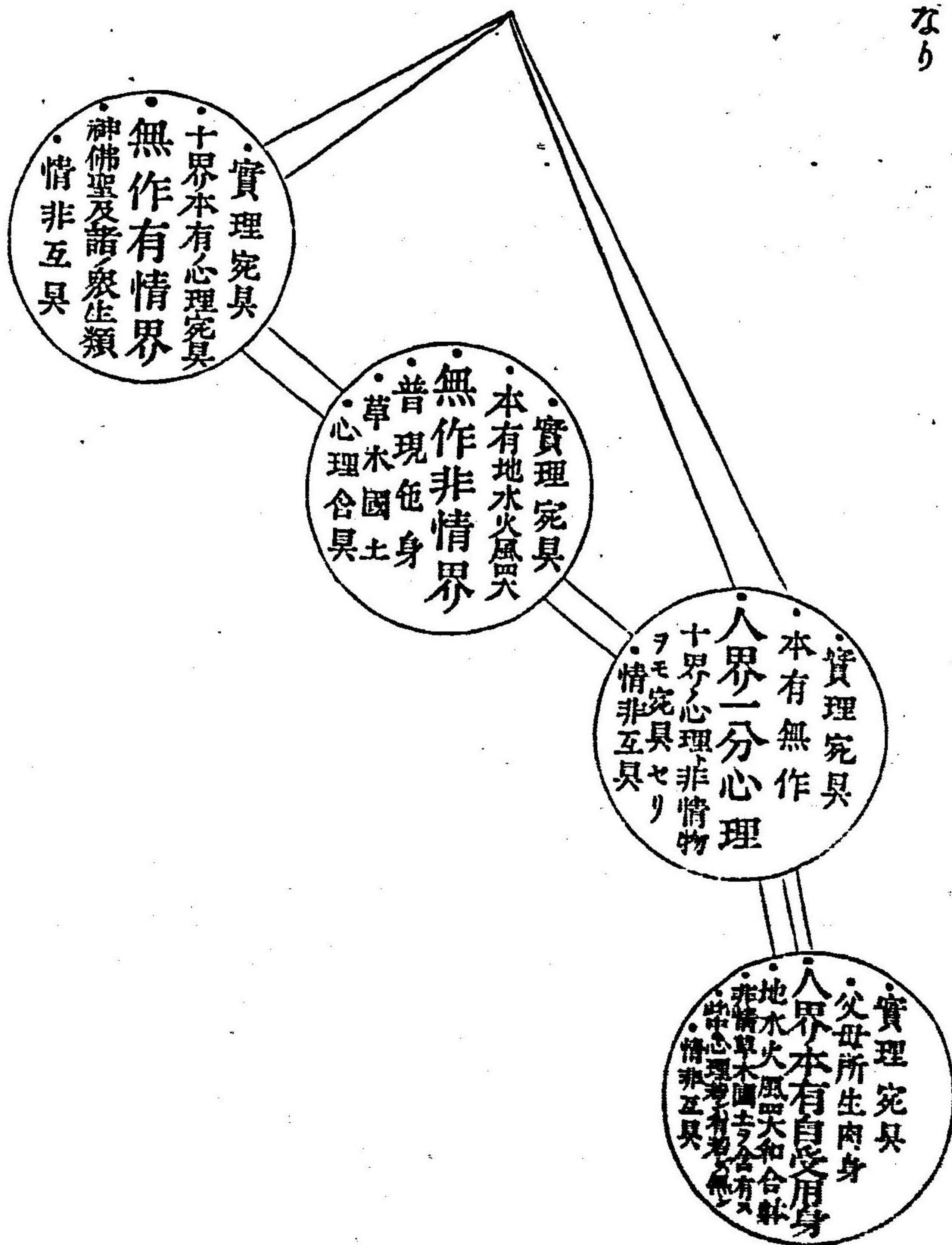
實理宛具
本有無作
人界二分心理
十界心理非情物
ヲモ宛具セリ
情非互具

實理宛具
父母所生肉身
人界本有自受用身
地水火風四大和合
非情草木國土等
皆心理有若無
情非互具

圖す指を同義異名と理實と理天

(一)筋の係は遍し即するを示すなり
 (二)筋の係は互具を示すなり

- 俗諦道
- 天理ノ異名・互具法ノ原素
- 萬物下種
- 絶待心理
- 無始原素實理
- 眞諦道
- 佛家ハ一念三千ト唱フ



無始常住實理情非二世間ニ遍即圖也

（宗教の文字如何ん）

古人曰く宗といつば尊也主也國に二人の王なきが如しと

右古賢が唱へし如く宗教の宗の字は無二の尊號なり何れか世界に宗なるや之を探究すれば佛宗教と云べし偕て教の字は聖人が下もに被らしむるを教と云ふと天台は釋し玉ひし例あれば最も爾かなりといふべし件宣ふる處は普通の宗教の文字を訓していふ耳み猶此奥に入て宗教の義を解釋せば

抑も宗教は先づ世界には佛教の外に宗教と云ふべき事理のもの有る事なし其所以は佛教に於ける宗教の字義を解せんは他教の如く文字にあらざ佛教の宗とは本有無作の心理に入て探究すれば無作三身と云へる因果あり此因果は諸佛の種子にして本有の三因と聖人は名稱し玉ひてあり此諸佛の種子たる者を聖人所有の邊に約しては佛陀自

行の因果と稱し十法界所有に約しては無作の佛意の因果と唱ふ即ち本有の三因にして佛身を得る種因種果束ねて因果とす是れ心理には十界各々此因果ある實證にして佛陀となるにも因果整束して佛身となるものなり此諸佛が種子とする佛因佛果の因果の二法を指して宗と稱するもの也蓋し因果を宗と稱する義の如きは智者大師が玄義に依るなり大師が説に據れば久成佛が自行の因果を宗と取り玉へり是れは本果の上にて云ふ時教相に顯然たる釋迦文佛が一代教の肝心たる因果なり是れは公然文證現證を有せる佛教中の要とする因果なれば高く佛家に立る宗の字是れなり今一重立入ての宗の字義あれども此段の必用にあらざれば省略す然るに佛家に依用とする宗の字義は如是く尊重の因果を取て義を宗に名づけたるものなり教の字義は宗の義の中かにて心理を分くる時は本述の別を有してあるを以て本述

大別を知るを教と稱へてあるものなり左れば此宗教の二字は完く心理の奥に入て因果を探究し其因果の實證より成立てるものなり因果の(佛性)尊重なる事を聖人究盡の上は之を關つて本述を亂さず教義を九界に垂れ玉ふ實理に起れりとす又廣く十界所有の宗教と觀する字義を以て此佛教の勝れたる宗教の文字が起きたるものと知るべきなり若其れ佛教に名くる宗教文字か他教の如く凡夫立教なれば成佛の因果は備らずと知るべし辱くも佛教に要する宗教の文字の如きは既にいふ現在心理成佛の究竟圓滿より起首して久遠に始りて深々の實義を含有して將さに宗教の文字と成ては之に速くも佛果成就の印を表しある也曾て有名無實に取扱はざる事を佛教者は臆念せざるべからずといふ是れ佛宗教の名義の興る所以なり

二佛教を信して其功德か身に報ゆる理由如何ん

夫れ佛教は心理にして文字にあらざれば是れを受持するとき直ちに心理(共に他)へ乗移る者なり其の心理に移る程の力用は何かんしてか佛の教へたる經文に備りたるやを問へば佛陀か心理か教經に移り居るかゆへなり其亦佛陀か心理は教經に移ると云ふ理由は如何と云へば佛陀か心理は久遠往昔に究竟圓滿し玉ひて其心理は大法と今日には稱へて抑も法華會座には出現し玉ふに三身如來の初めに法身如來と云へる大法は斷徳とて一切の煩惱心を斷盡し玉ふ心理なり次に報身如來と云へる大法は智徳とて一切智を備へ玉ふ心理なり次に應身如來と云へる大法は恩徳とて無邊の慈愍を誓ひ玉ふ心理なり斯くの如く如來は一人座して三身の心理を具有して斷徳・智徳・恩徳の三徳を圓滿具足し玉へは此佛意無量の心理より説出し玉へる教經なるか故に佛陀の心理か分身してあれば生身如來の如く功德ありて持教者は

即ち斷徳(煩惱を)智徳(一切智を得る)恩徳(慈愍心)の三徳を身に報ゆる者なり此佛教を持つ人の身には完く應報を來す理事如是きものなり此のゆへに佛在世には當機衆の舍利弗目連等の聖衆は件の三身如來壽量品をば終身觀心とし玉ひし例めしあり亦如來か結要付屬品には如來の滅後に此經を持つへしと説教へ給ふは正さに心理には佛の心理に踰ゆることなし其佛智か薰染したる教經なれば持教者は功德の空しからざるを明らかに告げ玉ひし誠諦の金言なり希くば著しき教力を侵すことなからしめ信して以て其妙圓を自他に蒙らしめば名は十方の佛陀か願海に流入て譽れは三世の菩薩の悲天に影響せん是れを今日にては如來の使とは云ふなり

因果の根據を説示す

夫れ因果は何より起るや人は之を知らざるハからす世人は知らんや

因果は善惡共にあつて皆是れ心理なり人々己々に有する心理中に因果が蘊在して本有無作とす若し其れ本有の心理中に因果を具有して無くんば心理中は死物なり前一部二部中にも屢々宣へし如く心理中には十界の如是をも具し居る事を凡夫は知らされども如來は之を究盡し玉ふと云へは心理中には因果を宛具しをる事は諍ひなきものなれども其因果は心理より如何んして發表するやと云へは即縁と云ふものに觸れて始めて因果が出来るなり其縁は何より來るやを尋求すれば人には各々六根と云ふて縁を求め體宰する大事のものか即ち六あり是れか因果の出來する基根なり亦是れに相對する六境とて六根の縁の綱となる無盡のものあり左に

六根 眼根 耳根 鼻根 舌根 身根 意根
六境 色境 聲境 香境 味境 觸境 法境

相對したる者也

右に示す處の傍らに立つ六根は人體に莊嚴する所の者たり又傍に立つ六境なるものは右六根に相對するものにして現世界に化成する凡百の者たり外境色質あるものなれば六根と終身相對せすといふ事なく其の相對を云は、眼は色形の物に縁を有求し耳は音聲ある者に縁を求め鼻は香薰の物に縁を求め舌は味の有る物に縁を求め身體は衣服を始め一切の物に於て身に觸れて心地よき類ひの物其他身體に付帶する縁の物を觸るゝと云ふなり偕て意は心智にして之に縁たるものは法とて智能に即したる限りのなきものにして一切の學實高尙に出てゝは心理皆之れ法に屬す

如斯く人體の六根か連對の六境に終身縁を繼續して縛を解かず此縁は即因果にして未來に尾を引き心理に狹むて歸しては來生に此縁果を發らくものなり左れば人間社會は一切因果の事を業とし居るもの

なり人間は抑も生を受けて來る身は因果の身なることはいふまでもなく終身因果を業として因果に歸する事を悟らざるへからず人真とに自己か心理の動作を知らず一晝夜には八億四千の念慮を起す其念慮なるものは皆悉く因果と云ふことを顧みざる凡夫なり件無量無邊の心理より起る因果は廣く二世間へ振張するものなれば此理由を了知すへき事肝要なり常に之を對治し是れか蔓延せざる豫防をなさんと欲するには日夜に自己か心理内證に入て正直なる佛陀の因果を喚興して外境の(六境を)因果の妄想を對治するに若かさるなり所謂ゆる邪は正に的する事難きかゆへなり即心理は因果にして因果は心理を生せしむる事實を告知らしむ是を法相の然るといふなり敢て疑ふなかれ之を一念三千の大綱綱目と云ふ

心理不滅を説明す

抑も佛教は如何むが佛教そや苟も絶待心理を確證して之を自己に觀心せしむるは是れ佛教の佛教たる真面目たる處なり
今夫れ指す處の絶待心理なるものを實證して心理不滅の確論を度量せんとす

夫れ世人は知らむや辱も佛教家の本尊たる者を觀よ心理不滅を證したるなり曾て死者の形ちを彫刻したるにもあらず假令ひ名を釋迦に付すとも散て釋迦一人に譲らす之は是れ絶對心理と稱する者にして法界中に關涉したる無作常住心理の舍利を實觀(自己の魂魄)したる姿なり此實觀は十界一般に涉て人界一部上の實觀とせず爰を以ての故に佛家の本尊を看て須らく有情界心理不滅の證票なりと知見するに足れり其實を告げは人は此舍利に相待して正觀を(自分の心理)起して觀よ十法界の心理に通即せしむるの實理を此舍利に含有せり舍利は

境なり向ふる吾れは智なり境智冥合し此れに對するの實を以てせば
唯一音を以て遠近を論せず一即に感應同交する之れ心理不滅の印證
にして凝々たる尊形と云ふ宛かも物を掌中に獲たるが如し之を誠と
云はすして何そや啻に是れは佛家の秘密にして他教の夢寤にも知ら
ざる處なりとす果して然らば特り佛家の本尊に於て心理不滅の嚴據
を觀る事諍はすして明白たり良とに天上天下唯我獨尊なりと斷言せ
ん耳み偕て其の是を行ふ所作と儀式との如きは長くも如々眞實の道
を勤むる者にして將さに此を如來と云ふなり如來は心理不滅の活動
する實理なれば心理に境妙智妙と云ふ不思議か合善して如來の躰を
起す者なり之か確たる心理不滅の的證とす
上來述ふる如く心理不滅の證は佛家の妙用(カ也)也蓋し佛家の舍利(本
と)の如きは心理不滅の的證なれば之に向ふる信敬者か心理の亡論不

滅なるをしるへし其所以は境智冥蕪して互ひに相離れすして而かも
二不二常同常別といふ其實理か完く心理不滅也苟も是が佛教の活佛
教たる處にして本地佛教宗教の蕩々たる心理不滅論爰に満足す

常寂光の義を語る

地涌千界の上首大聖曰く

今本地の娑婆世界は三災を離れて四劫を出でたる常住の淨土なり佛
既に過去にも滅せず未來にも生ぜず所化以て同躰なり是即己心の三
千具足三種の世間なり矣

と釋したまひて是を今日上一世界の衆生社會に取て我輩等も此妙理
を身體に感佩して觀る時は須らく無量劫よりこのかたの佛陀神明も
衆生社會も一心理にして一ならず異ならずして中道の容相に住在し
即常寂光の正觀なりと云ふなり

尙ほ此義釋の意を和解して常寂光を晤らんとす

抑も過去の佛聖が所在は不生不滅の實理となつて三世間即五蘊衆生國土との三種に體宰し玉ひぬれば必ず我衆生社會も恒に三種に居を俱にする姿が即ち常寂光なり其實義を細かに並れば

・常も三種に遍し即したり

總して心理は三種に遍し即すれば遷らざ變せざるもの是れ常の義意なり

・寂も三種に遍し即したり

總して心理は三種に遍し即すれば離るゝ事もあり離るゝ事なし是れ寂の義意なり

・光も三種に遍し即したり

總して心理は三種に遍し即すれば眞諦を照らし俗諦を照らす

是れ光の義意なり

此の常寂光の三義を一即に晤るを本義とすれども看る人難なるを察して離別して陳たるなり讀者は三義を後ちには一即にして考案すべしといふ

予が此解釋を茲に置くものは他なし正さに常寂光の義は佛教の眼目とも骨髄とも稱する大事にして容易ならずと云へども社會の爲めに一言するものなり是れは全く人魂不滅の證を告げ人魂歸着の所在を教示したる要義なれば佛教の辱きを了知し以て佛恩を謝すべきもの哉蓋し此實義を知るからには是れを我身に宛てゝ了解せよ刹那に成佛したりと云ふにあり佛教を信ずるもの此實義を忘れて佛陀と衆生との境界一に歸するを惑ふこと無くんば可也

・佛教は他教の如き世俗の愛情を以て衆生教化の方便とせず唯自

利利他(權利義務の)の行業を以て方便とする理由を辯明す
抑も世の人に對して實義なく言辭と其身の振舞とを以て教を布かむ
とするもの世界にあるは凡夫が悪巧に成立つ諂諛の邪教といふ汚名
を獲るなり

右は明聖なる佛教より見るとき他教の非を直ちに知るものとす
辱も佛教の如きは世俗の愛情を以て誘引せず衆を教導するには折攝
(隨自意)二門の規矩あつて此取捨を取るに衆機の之に堪否を測りて普
く九界平等に教理を傳ふるを強願通應の四菩薩が誓力として正さに
教化の方便とするなり是れは佛陀が佛弟子に教ゆる本理にして大乘
法華の教義なり

若しそれ佛教妙實の衆機に對する方便を語らば今世文明の時機に匹
的しては自他の權利を失はざらむ教義を施くへし假令口には高尙

甚深を唱ふとも自分の權利を刷き他人の權利を束縛する邪理あらむ
には世人が其宗教の過咎を穿ちて是れを刺撃せん事疑ひある事なか
らん是れ實理より觀る處にして心理實相(事念三)の匿し覆ふべか
らざる所以なりといふ

苟も佛教は自利々他の行を完ふするとは彼の法華不輕品に説ける過
去の不輕菩薩を觀よ社會の衆生毎とに向ひて合掌して曰く

我深敬汝等不敢輕慢所以者何汝等皆行菩薩道當得作佛矣

右自他の心理を觀して自利々他の行を専ら修して自己も他衆も同權
を有したるを證したる試めしなり現在此菩薩貳百萬億那由陀載を保
壽して衆機を度したりといふなり豈に是れを以て憑據とせんや是れ
を以て之を見れば佛教の要は本來己れが心理を宗教とし自他同權の
魂心を宗教となす特り自主權の立派するは佛教なり此宗用を守るを

第一義諦道を維持すといふ此故に佛教は自利々他の行闕けす件の實義を以て衆機を誘導するがゆへに世俗の愛情を以て教化の方便とせずといふ是れは特り佛教の眞面目にして他教の及はざる所ならんといふもそれ慢言にならざるか其所以は不輕菩薩の行儀が現在の證票にして聊爾にも疑懼を容るゝ處なし

心理不滅論

心理不滅論附錄

應佛昇進の自受用報身釋迦文佛實説に曰く

於我滅度後後五百歲中廣宣流布閻浮提無令斷絕矣

(法華藥王品拔出)

靈山聽衆天台智者大師釋して曰く

後五百歲遠沾妙道矣 (拔出畧語)

日本傳教大師釋して曰く

正像稍過已末法太有近法華一乘機是正其時矣 (拔出略語)

右に掲る經文疏釋に就て慮る時は今の世に當つて一世界中の其衆生と國土とに大ひに感應利益を興ふべき實理佛法が興立する時機完く到來せりと考へたり世人豈に之を糺明せざる(けむや爾りといへども若し佛教の實理を知らざるものか右の經釋を了簡する時は經文讀

第一義諦道を維持すといふ此故に佛教は自利々他の行闕けす件の實義を以て衆機を誘導するがゆへに世俗の愛情を以て教化の方便とせずといふ是れは特り佛教の眞面目にして他教の及はざる所ならんといふもそれ慢言にならざるか其所以は不輕菩薩の行儀が現在の證票にして聊爾にも疑懼を容るゝ處なし

心理不滅論

心理不滅論附錄

應佛昇進の自受用報身釋迦文佛實說に曰く

於我滅度後後五百歲中廣宣流布閻浮提無令斷絕矣

(法華藥王品拔出)

靈山聽衆天台智者大師釋して曰く

後五百歲遠沾妙道矣 (拔出畧語)

日本傳教大師釋して曰く

正像稍過已末法太有近法華一乘機是正其時矣 (拔出略語)

右に掲ぐる經文疏釋に就て慮る時は今の世に當つて一世界中の其衆生と國土とに大ひに感應利益を興ふべき實理佛法が興立する時機完く到來せりと考へたり世人豈に之を糺明せざるへけむや爾りといへども若し佛教の實理を知らざるものか右の經釋を了簡する時は經文讀

誦の宗教が彌よ是より盛大に流行せむかと思ふへし或は又理學者如きもの言に據れば亦もや妄信宗教か増加し進化せむかと云ふへきなり常恆に文字に附順して義理に立入らざる者は如是く誤解するならむ予は今爰に上みの經釋の義意を辯解せむとす

抑も問題の經釋の義理の如きは今世に當つて文字讀誦の所作か興起するとを豫言したるにもあらず敢て亦本無今有の教理か進化すといへる未萌の格言にもあらず曾て三世了達の聖人が誓ひ玉ひし一大秘密とする能所が義務を帯ひたる大事業の興起する事なり其事業が茲に興顯して一世界中の國と云ひ人衆といふか彌よ完く賢劫の世運たる放光を觀るの豫言なりとす

果して然り而ふして右いふ所の聖人が即秘密誓ひの事行とはそれ辱も人々己々の心理に蘊在せる本來本有無始無作の佛法といへるもの

の實相を起作するをいふものなり云云今也世界は人智開明し國家は進化するの勢に乗して彼の秘密の大法が薰發し以て自他合同の妙理を獲へし蓋し其興顯せる佛法と其持てる國土の人と互ひに境となり智となり境々冥薰して自他平等の利益を蒙むるなるへしそれ人の世にあつては各々諸災をは遁逃せむとを希ふなり然るに件興顯する佛法の力用に依て彼の人衆は皆一般に恐怖をなす諸災の中にも大の三災とて天變と地天と飢饉との三つの災害に亦別しては四劫とて成住壞空といふ異動のあること等庶ろく憂患する災禍を避除する術を得し以て其人法共に不老不死(常住不變)の妙益を蒙らむといふ如是き事實あるかゆへに今將さに此佛法を事行あらまほしく語る所以のものなり

左れば上件問題の經釋の義味なるものは予か今既に陳する所の主旨

の豫言にして是を疑ふへからすといふ乍去聊か證文を出されは必ず
疑貽あらむか是を恐るがゆへに且らく實經の明文を指舉せむとす其
れ

法華壽量經に曰く

如來秘密神通之力矣

右の一句は文字にあらすして即五百塵點所顯の三身如來といふ無始
の古佛の御換名なり是を之れ如來か化他に出ては教相上壽量品の
如來と唱へて今將さに興立あらむことを望む所の完く我等衆生自他
共に己心に秘藏する一念三千の佛法といふ實相にて座すなり蓋し亦
此事實を明知するの證憑と仰くへきなり既に此大事をば
傳教大師釋して曰く

一念三千即自受用身自受用身即一念三千自受用身とは出尊形佛矣

右道の御釋は上陳せし壽量品の無作三身如來のことをは釋し玉ひし
ものにして大師が此如來のことをは一念三千自受用身と釋せり正し
く一念三千自受用身と指すは九界の衆生が各々當躰中に無始曠劫よ
り已來た名々己心に秘蘊せるをいへるなり是れが即ち靈山會上にて
釋尊說法の時に壽量の三身如來とて教相上に此如來が所顯し玉ひし
といふことを御釋ありしなり苟も傳教大師は親たり靈山の聽衆にし
て殊に此如來を直見の權者なれば斯く詳かに證し玉ひしなり
法華壽量品に曰く

色香美味皆悉具足矣

是好良藥今留在此汝可取服勿憂不羞矣

右此經文は譬喩の如くに聞へて譬喩にあらす且つ文字にはあらざる
なり既に上みに述ふる所の壽量品の三如來の實躰を色香美味と是好

真藥とは秘密語を以て説きたるものなり佛法を修するもの焉そ之を尊信せざらむや此佛尊は一念三千の佛なり一念三千の佛なれば我等無始本有己心の佛尊なり今也此如來をば直達正觀とて觀心に取込み衆生が己心秘具の佛尊と信仰せば神通妙利益妙を自在に得へきこと今の文相に見へたり嗚呼それ是を仰けは彌々高し是を切るに彌々堅しと此一念三千の如來の妙々不思議なる今世界に出興することや今の深文に顯著なり吁々尊ひかな上來既に興立佛法の義意を宣へたり且つ其文證憑據を擧げたれば尙此上は件尊貴なる佛法事行の宰主なる聖人を尋ね其證憑を求めざるへからず今其實證を示さむとす

法華壽量品に曰く

遣使還告矣

右の遣使還告の權者とは地涌の菩薩を指すなり其所以は既に本化の上首か垂示に曰く

未法今の世の番衆は上行無邊行等にて御座すなり此等を能々明らめ信してこそ法の驗しも佛菩薩の利生もあるへしとは見へたれ上行菩薩の御利生盛なるへき時なり其故は經文明白なり矣

右證する所の經釋を伺ふに將さに興立する佛法の宰主尊嚴として座せり實に茲に出現し玉ふこと祥々たりといはむや

今此經釋に就て予は聊か義解をなさむとす抑も天台智者大師が曾て釋せる如く三世(種熟)の化導慧利無疆とは本佛一人の誓ひ玉ふ處には相違なきか二千餘回昔日には釋迦尊脫益の義務をば既に終了し玉ひたれども尙を釋尊滅後正像二千年間は在世に漏れたる衆生が出現するを以て四依の菩薩を御使に派遣せしめ玉ふ四依の菩薩は佛勅を以

て出現して正像二千年間に出現する彼佛在世漏洩の衆生に熟脱を榮らしむ依ては脱の區域は完く正像二千年間にて結了せり
 諸て爰に於て事一變して末法となつては機根相轉すれば必ず今世の衆生は一般に下種結縁となる依て末法の今日は熟脱の者は一人もなしとみるが本理なり故に今日をして無教の時とはいふなり今日は正さしく久遠本佛が元初自行の時の如しといふ爰を以てのゆへに今世の衆生は一に以て佛法結縁者とす本佛の遺賜を紹繼するがゆへに下種本因妙の人と稱するなり苟も下種本因妙の學修の如きは甚大切なり其所以は重大なる佛法を觀修するがゆへに是を獎勵の爲めに久遠本眷屬の上首が本佛の遣使還告となつて出現して即ち以教餘迷(妙樂)の紹介をなし玉ふなり上來陳する末法今世適時たる佛法を起し本佛派遣の教授を被むる時は辱くも今世下種の衆生は刹那成道の法理

を感得するといふ尊大なる今也機會なり此機會に望む其幸運に於ける常住の佛法より來るなり佛法に志念あらむ人は此機會を外つしては可ならむや若し人此時機を過つては自分の損たり何むとなれば聖者には毎度逢ひかたし今度若し此下種本因妙修を退轉し或は結縁を過しては必然五百座點劫數間生死の流轉を究むといふ例めしもあるがゆへに佛者は非常に此時期を謹畏し大切とするなり敢てそれ此流轉をなさしむるものが他にあるにあらず自業自得なり亦それ五百座點劫の永久間生死に沈輪するものは自己の心理を鹿忽になす業報に因りて即ち三益の教主の出世に遇することを得ず曾て本從此佛の成規の爲めに他佛に逢ふて下種を乞ふことも能はされは尋常に五百座點劫を過こして向ふの下種本因の時期を待たさるへからず是れ常住の實理なり其故に

地涌千界の上首垂示に曰く

久遠下種の者は五百座點劫大通結縁の者は三千座點劫生死に沈みし云云今は我等か身に懸れり願はくは我弟子等大願を起すべし矣右の御釋にて永々劫の龜鑑とするに足れり今世衆生が滿願の注意となるべきなり然にそれ本佛第一番成道下種の時に退轉せし其人を探究すれば舍利弗目連等の今日靈山の當機衆なりといふ此等は久遠下種の人にして既に五百座點劫間生死に沈輪し玉ひしといふ例めしなり其後は中間として今日の釋尊出世までの其間に於て三千座點の過去大通智勝佛出世の時あり此時の即結縁衆の如きは今日の釋尊出世まで履歴三千座點にして此間生死に沈めりと是皆下種を退轉せしに起因して如是く三五の座點を経たる其例めしなり依ては今世の人も宜しく過去を顧みて下種を被むとする人は油斷なくむは可ならむのみ

今既に證する所の本化上首が懇篤なる垂示は感謝に堪へざるなり嗚呼辱きかな左れば上來興立佛法の要旨を陳したれば記者は爰に於て此一段の結縁をなさむとす

良に以れば佛教の大意に於ける自己が心理の位を墮落せさらむことを勤むるにあり然ふして生々世々心理の覺位を騰致せしむるを勤修するか佛教の極地なり然るにそれ心理は常住なるものなれども掌に取て其實相を觀ること中々難し爾りといへども今世興立の一念三千無作三身如來の實相や既に本佛が究竟して掌に取り玉ひし實相なれば是を以て自己の心理騰致の實相に代ふと云ことを本佛よりの遺命あり之を秘密の大事といふ即ち是を衆生に傳へむといふために上に證したるが如く遣使還告の金言あるなり云云偕て件の一念三千の實相をは今世に興立する所以なるものは一切衆生か心理を保護す

地涌千界の上首垂示に曰く

久遠下種の者は五百座點劫大通結縁の者は三千座點劫生死に沈みし云云今は我等か身に懸れり願はくは我弟子等大願を起すべし矣右の御釋にて永々劫の龜鑑とするに足れり今世衆生が滿願の注意となるべきなり然にそれ本佛第一番成道下種の時に退轉せし其人を探究すれば舍利弗目連等の今日靈山の當機衆なりといふ此等は久遠下種の人にして既に五百座點劫間生死に沈輪し玉ひしといふ例めしなり其後は中間として今日の釋尊出世までの其間に於て三千座點の過去大通智勝佛出世の時あり此時の即結縁衆の如きは今日の釋尊出世まで履歴三千座點にして此間生死に沈めりとは皆下種を退轉せしに起因して如是く三五の座點を経たる其例めしなり依ては今世の人も宜しく過去を顧みて下種を被むとする人は油斷なくむは可ならむのみ

今既に證する所の本化上首が懇篤なる垂示は感謝に堪へざるなり嗚呼辱きかな左れば上來興立佛法の要旨を陳したれば記者は爰に於て此一段の結縁をなさむとす
 眞に以れば佛教の大要に於ける自己が心理の位を墮落せさらむことを勤むるにあり然ふして生々世々心理の覺位を騰致せしむるを勤修するか佛教の極地なり然るにそれ心理は常住なるものなれども掌に取て其實相を観ること中々難し爾りといへども今世興立の一念三千無作三身如來の實相や既に本佛が究竟して掌に取り玉ひし實相なれば是を以て自己の心理騰致の實相に代ふと云ことを本佛よりの遺命あり之を秘密の大事といふ即ち是を衆生に傳へむといふために上に證したるが如く遣使還告の金言あるなり云云偕て件の一念三千の實相をは今世に興立する所以なるものは一切衆生か心理を保護す

るためなり正さにしるへし心理を保護すれば國土も一切萬物を育成
保護する實なるものなり其心は國土も一切萬物心理より出生したる
ものなれば心理をば保護し大切にすれば一切心理の光りによりて國
土も及び萬物皆以て成就するに易きものとす是れは三世了達の聖人
が究盡の上への指南にして記者が曲會の語にあらす是れを一念三千
とはいふなり此事實よりして一念三千壽量の三如來の實相を事行興
立すると今世必要といふ義なり辱くも壽量品三如來の如きは空佛に
あらず假佛にあらず中道の實理なれば常寂光に遍身して巍々尊高に
座せり是を興行尊信すれば諸惡諸災を避くへき能徳あるを以て文明
國の資とす文明の人をして倍々文明ならしめ知識を進歩せしめ一切
智を加護あらしむる功徳あり萬徳を具足せるなり故に上みに引證す
るが如く此等の御徳力をは色香美味皆悉具足といふ又活佛に座して

不思議の感應妙利益妙あるを以て如來秘密神通之力といふ畏くも此
等の御徳力は一念三千の佛躰なるがゆへなり一念三千の佛躰なれば
辱くも彼如來と我等衆生と境智の間に不思議の妙用が顯るべき正法
なり希くは此佛法を以て吾 帝國を始め世界萬國まで平等利益の法
雨に潤澤あらしめむことを祈望すといふ

明治廿八年六月



全 明治廿八年六月二十日印刷
年六月廿五日發行
著者

著者

發行者

印刷者

發行所

印刷所

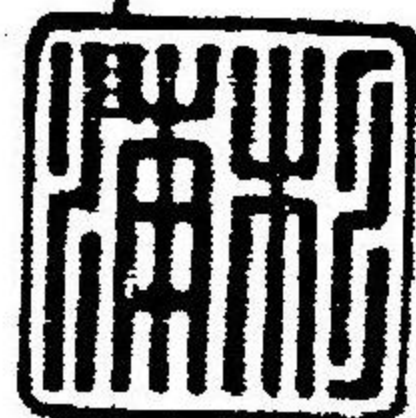
定價金八拾錢

驥尾日守

京都市五條橋東六丁目
廿四番地

杉浦虎治

京都市麻布區飯倉町六丁目
十六番地



島保藏

京都市牛込區市ヶ谷加賀町
一丁目十六番地

哲學書院

京都市本郷區本郷六丁目
五番地

株式會社 秀英舍第一工場

京都市牛込區市ヶ谷加賀町
一丁目十二番地



全 明治廿八年六月二十日印刷
年六月廿日發行
著者

著者

發行者

印刷者

發行所

印刷所

定價金八拾錢

驥尾日守

京都市五條橋東六丁目
廿四番地

杉浦虎治
京都市麻布區飯倉町六丁目
十六番地



島保藏
京都市牛込區市ヶ谷加賀町
一丁目十六番地

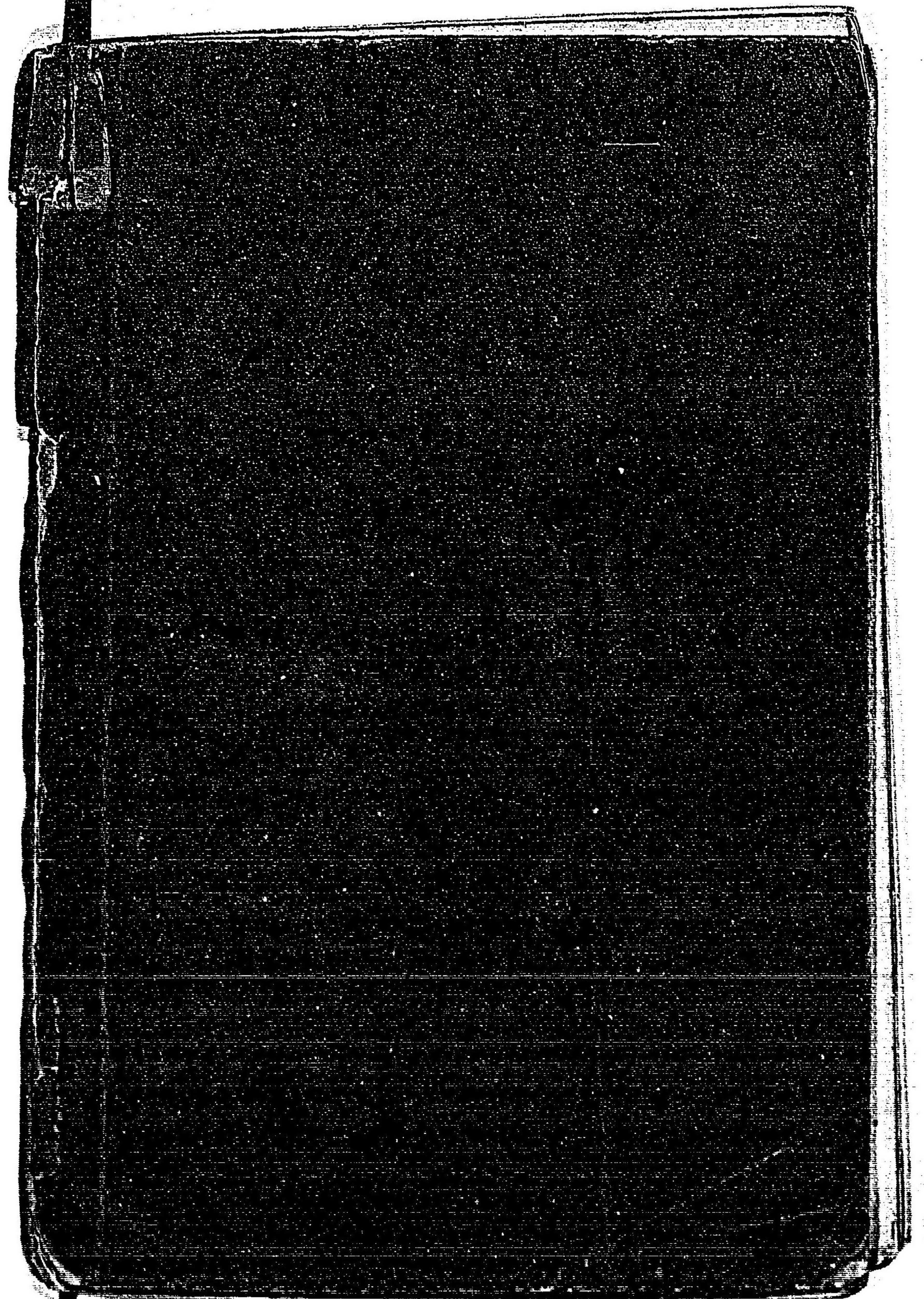
哲學書院
京都市本郷區本郷六丁目
五番地

株式會社秀英舎第一工場
京都市牛込區市ヶ谷加賀町
一丁目十二番地

72
238

全
國
各
地
分
行
代
理
所
開
辦
之
銀
行
業
務
均
已
完
成
其
中
之
詳
情
請
參
閱
本
報
之
專
欄
報
道

本報專欄
銀行業務
均已完成
詳情請參
閱本報專
欄報道



72
238

(M)

019977-000-9

72-238

心理不滅論 全

驥尾 日守/著

M28.6

ABH-0131

